

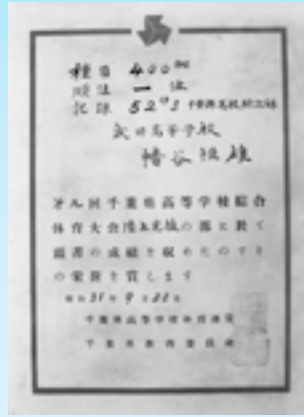


ゆめ半島
千葉国体
2010

国体の記憶 ⑪

”完全燃焼”できた3年間

このコーナーに登場してくれる人を募集します。
くわしくは広報課(☎20-1503)へ。



田中 恒雄さん(西和泉)
(旧姓：幡谷)

荒海出身。昭和30年、成田高校2年時に陸上400m走で神奈川県国体出場。翌年、秋の県高校総体で千葉県高校新記録を樹立。同年冬にはキャプテンとして同校初となる全国高校駅伝大会出場を果たした

胸に千葉代表の印・菜の花のワッペンを付け、横浜での開会式に臨んだ。第10回神奈川県国体。「各都道府県代表が一堂に会し、天皇后両陛下もご覧になっている。遠く北海道からつながってきた「国体旗」が会場に入ってくると胸が熱くなりましたね」

国体の開会式には特別な思い入れがあった。念願だった国体出場を決めた高校2年の秋、「国体旗リレー」(現在の大会旗・炬火リレー)が成田を通過し、その先導役を務めたのだ。当時は前年開催地から大会会場地へと、いくつもの県をまたぎ国体旗が運ばれていた。「大勢の人の手によりつながってきた重みを感じずにはいられませんでした」。誇らしさをかみしめ、沿道からの声援を受けながら、山口から葉師堂まで走り抜けた。

陸上競技400m走に出場。「19歳未満」という出場枠だったため、上級生や大学生を相手にしたレースだった。予選は通過したものの、決勝進出には一歩及ばず涙をのんだ。だが、本格的に短距離走を始めて1年半、100m・200mから400mに転向して、



国体旗リレーの先導を務める田中さん(右)

わずか半年でたどり着いた全国レベル。「走るたびに記録が伸びるという感じでした。400mは瞬発力と持久力の両方が求められる種目。自分が力を出せる距離を見極めてくれた監督のおかげだと思っています」

国体で深めた自信は、次の挑戦へと向かわせた。「県高校新記録」。翌年の国体出場は見送り、記録一本に狙いを絞り、調整に励んだ。ひたすら続けた腕振りと腿上げ、きつい冬場の階段の昇り降り。それらは高校最後の秋、県大会で実を結んだ。

「国体出場と県高校新記録。2つの目標が達成でき、「完全燃焼」といえる3年間でした。目標に向かって真っすぐに進んだ日々は、今でも大切な財産になっています」

編集後記

お盆は、精霊棚を作りご先祖の霊をわが家に招いて、家族同様に過ごす仏事です。久しぶりに帰省された方も多いことと思います。昔はどこの家でも、ご先祖が早く来られるようにキュウリの馬を、ゆっくり帰ってもらうためにナスの牛を供えましたが、最近は簡略化されているようです。地域の風習などは、変わることなく受け継いでいきたいものです。



成田市役所本庁舎
(行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署)
はISO14001の認証登録を受けています。

平成21年8月15日号 No.1153

成田市のホームページ <http://www.city.narita.chiba.jp>